

血管内造影 CT 時の造影剤血管外漏出防止のための取組み

《演者》

佐々総合病院 長島 明美

【目的(はじめに)】

A病院では、胸腹部の造影CT検査の際、検査前に刺入部の漏れがないこと、血液の逆流があることを確認しているにも関わらず、検査中または検査後に刺入部からの造影剤漏出例が認められていた。検査においては通常より高い圧力がかかること、両上肢を挙上した状態の保持時間が長く、検査のはじめに伸びていた肘も時間と共に保てなくなるケースが多かった。

そこで、肘関節をシーネ固定し伸展した状態を保ち、検査中の肘関節の屈曲を抑えることで、刺入部から造影剤漏出や血管外漏出を防止できるか検証したので報告する。

【方法(内容)】

2013年7月～12月の期間に冠動脈CT、胸腹部造影CT、骨盤造影CT検査を実施した対象群:595名、実験群:78名、(年齢:平均79歳、男女比36:42)に対して準実験研究を行った。

実験方法は肘関節が屈曲しないよう独自に考案したシーネによる固定器具を使用して、同意を得て、患者の腕が外れないように腋窩側と手首側をマジックテープで固定した。

評価は、患者側評価と看護師側評価をアンケートにて実施し、統計学的処理はフィッシャーの正確確率検定を用いた。

【結果(結論)】

上肢を挙上する造影CT検査時に「独自に作製したシーネで肘関節を固定した実験群」と「何もなかった対照群」の比較では、刺入部漏出や血管外漏出に有意差はなかったが、実験群における造影剤漏出は1件もみられず、シーネの効果が示唆できる結果となった。患者が平均79歳と年齢層が高く、上肢を伸展させたままの自力保持は比較的困難な作業であるため、シーネ固定により肘関節の屈曲を適切に抑えられ、造影剤漏出防止に有効的であったと考えられた。

【考察】

造影CT検査は、アナフィラキシーショックや造影剤の血管外漏出など重症事例になるケースもあるため、検査室看護に不安を抱くスタッフも少なくない。作成したシーネは造影剤漏出防止のみならず検査室看護における不安要因を減少させるという点においても肘関節屈曲を抑制する補助具として、今後も継続して使用する価値があるといえる。